

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に経営者と職員が話し合い、「共生笑喜」を理念をして決めました。フロアと事務室内に会社の理念「誠心誠意」とともに掲示し、朝礼等で確認しています。	法人の理念「誠心誠意」と、開設時に運営者と職員で話し合いつくり上げたホームと併設小規模多機能型事業所との共通で、独自の理念、「共生笑喜」を唱え実践している。「貴方が笑うと私も笑顔になれる。貴方が喜ぶと私も嬉しい。幸せの相互作用で共に生きる」との説明書きを添えてリビングに掲げており、来訪者も目にする事が出来る。申し込み時や契約時に利用者や家族にその主旨を説明している。職員の言動が理念にそぐわない時には管理者から直接注意をするなど意識づけがされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練に地域の方に参加して頂いたり、地元の中学校2校の職場体験の受け入れを行っています。地域のフラダンスの会の方にボランティアとしてホームの行事にも参加して頂いています。	運営会社の本社がホームの隣接地にあり、代表者も地元地区に住んでいるので地域との結びつきは強い。月一回地区の「とりさる隊」に参加し清掃活動も行っている。地域の夏祭りには会社の連の一員としてホームの職員も参加し、地区の住民も同じ連に加わり地域の活性化に協力している。ホームの行事には大正琴や音楽レクリエーションなどのボランティアが訪れている。	ホーム内での地域の人々との交流の機会は増えているが、地域の情報を集め、利用者が更に地域の行事などに参加できるように取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会長、区長、民生児童委員の方に認知症の介護等でお困りの方があれば、相談・支援する旨をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時の対応方法や行事の行い方など、運営推進会議での意見を取り入れ、サービス向上につながるよう工夫しています。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月に一回開催している。家族代表、御嶽堂自治会長、上組区長、民生委員、近隣住民、自治センター職員、地域包括支援センター職員などが出席している。利用状況や活動内容の報告、事故報告などをし、意見・要望もいただき、地域との関わりに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当係長に出席して頂いています。市から派遣されている介護相談員にも定期的に来て頂き、利用者の話を聞いて頂いています。要介護認定の認定調査にも協力しています。	運営に関する相談や助言・指導、地域ボランティアの紹介もいただいている。介護認定更新の際には調査員がホームに来訪し、時には家族も参加し情報を提供し、区分申請の代行もしている。市派遣の介護相談員2名が2～3ヶ月に1回来訪し利用者の話を聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階入り口が階段のすぐ前にあり、転落防止のため、電子錠による施錠を行っていますが、身体拘束禁止の研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所が1階にありホームが2階にあるため、実質的な玄関はオートロック方式で安全上施錠されているが、家族には説明し了承を得ている。帰宅願望のある利用者もいるが様子を見ながらホームの買い物などを絡めて外出している。ホームの重要事項説明書にも利用者の自由を制限するような身体拘束を行なわないことが明記され、やむを得ない理由でせざるを得ない場合、同意の上、その理由と経過記録を残すことも記されている。行動を抑制することのないケアについて職員の意識は高い。	

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、2月に勉強会を行う予定です。認知症ケアの実践の中で高齢者の尊厳保持(言葉使い、目線等)も気をつけています。心身の観察も随時行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は地域福祉活動の支援員及び居宅介護支援員として日常生活自立支援事業/成年後見制度の利用に係る機会が多くありました。2月に権利擁護の勉強会を行う予定です。制度活用の必要性はカンファレンス等で適宜話し合います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、おおむね1時間程度(場合によっては2時間)の時間を頂き十分に説明したうえで、同意を頂いています。契約前の問い合わせや見学時にもパンフレット等で丁寧に説明するように心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表に参加して頂き、自由に意見を述べて頂くようお願いしています。介護相談員の方にも利用者から直接お話を聞いて頂いています。地域のボランティアの来訪時、お話を聞いて頂くこともあります。	家族の来訪も週2回の方から2~3ヶ月に1回の方など数の違いはあるが、来訪時には利用者の状態を伝え、意見や要望をいただいている。納涼祭などのホームでの行事や利用者の誕生日会には家族に声をかけ利用者の様子を見ていただいたり、共にひと時を楽しんでいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を開催し、意見・要望を出してもらっています。毎日朝礼を行い、その場でも自由に発言してもらっています。それ以外でも、その都度、施設長・管理者・ケアマネジャー・リーダーが話を聞いています。	職員のシフトや休日の調整をしながら毎月一回の定例会を全職員参加で行っている。会社からの連絡・通達、運営状況や利用者状況、業務に関する改善等について話し合われている。管理者やリーダーは職員から個別に相談されることも多く、解決すべき事項については結果を知らせ良好な関係を維持している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、週に1度ホームで昼食をとり、それ以外にも週に数回来て、利用者・職員と話をし、勤務状況を確認し環境改善を図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月短時間ですが、研修会を開催しています。法人外の参加はまだまだ不十分なので今後進めていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、他法人の事業所報告会に参加し、施設内の見学をさせて頂きましたが、ほとんどできていない状況で、今後の課題です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約締結前に自宅や入所中の居室に訪問し、安心できる環境の中で、本人から不安な点や要望を聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結前もしくは締結時に、自宅またはホームの相談室で困っていることや要望等を聞くようにしています。入居時もお話を聞ける体制をとっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、困っていること等をお聞きして実情をよく把握し、その困難の解消に適切な支援、サービス等を広い視野にたって説明するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される人ではなく、ホームで暮らす生活者としてできること(掃除、洗濯、茶碗拭き等)はして頂いて、役割意識も持って頂くよう努力しています。人生の先輩として、年中行事などは相談しながら行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の付き添いに家族が対応できればして頂いています。面会もできる限り来て頂き、面会時間外でも受け入れるようにしています。支援、介助の方法も適宜家族に相談しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1階の小規模多機能居宅介護利用中の夫との面会の支援などを行っています。親戚や友人の面会や電話の取り次ぎもしています。訪問理容の理容だけでなく、美容室に行くなどの対応もしています。	自宅近所の方や昔の教え子などの訪問を受ける利用者がある。お盆やお墓参りなどで外出や一時帰宅をする利用者もおり、どんど焼きや餅つきなどの地域の慣わしなども大切に、併設の小規模多機能型居宅介護の利用者とともに楽しみながら懐かしんでいる。電話をしたいとの要望があれば友人や家族と話ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲の良しあしを十分把握し、いい関係づくりができ、またトラブルが起きないよう職員が間に入るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの利用終了が長期入院によるものでしたが、入院時は情報提供等速やかにを行い、入院中も家族や病院に適宜連絡をとっていました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	前年度は、ケアマネジャーが小規模多機能居宅介護と兼務のため、利用者と接する機会が少なかったが、今年度はグループホームのみのケアマネジャーとなり、利用者の希望や意向の把握を重点的に行っています。家族からも生活歴などを聞くなどして、本人の意向に近づくよう努力しています。	殆どの利用者が自分の思いや意向を伝えられることができる。ホームに何故住んでいるのかわからないという利用者の悩みにも真摯に向き合い傾聴する姿勢を崩さず丁寧に対応している。広告用紙でゴミ入れを折る最高齢の利用者は「少しでも役に立ちたい」と知り合いや来訪者に出来上がったものをプレゼントしている。長年継続してきた趣味の刺し子についても職員の働きかけで行なう利用者もいる。日常生活の中でも食べたいものや外出について職員が問いかけ対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から差し支えない範囲で生活歴等を聞くようにしています。また屈託なく話して頂ける関係性を築けるよう努力しています。また本人をしる家族や近隣の方からプライバシーに配慮したうえでお話を伺うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身機能が低下して、もうできないと決めつけず、できること、興味があることを確認するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心にカンファレンスを行っています。家族面会時にも意見、要望等を確認しています。朝礼等でも意見を出し合いプランに反映しています。	現管理者になってから居宅サービス計画に係わる一連の書類が完全に整備された。援助内容に沿ってのモニタリング記録表があり、それを基に職員がカンファレンスを行い計画作成担当者がまとめている。利用者の現状を踏まえ、利用者・家族にどのような生活をしていきたいかも聞いている。定期的な見直しは3ヶ月ごとに行い、状態変化がある時は随時見直しを行っている。変更後の計画は家族の方の来訪時に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人記録に記録を残していません。気づいた点や工夫なども書き込み、全員で共有し、実践しています。プランも見直しも必要に応じて行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや買い物の代行、個別の外出などニーズがあれば対応するように心掛けています。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にボランティアに来て頂いたり、近隣の美容院の協力を得ています。地域の病院の医師にもホームドクター的に対応して頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者9名中8名が同じ主治医で、月2回の往診を受けています。随時訪問看護を通じ連携を図っています。残り1名も夜間や緊急時等は同じ医師の診断を受けることを、その方の主治医、家族から了解を得ています。必要な診療科目がある場合は、家族と連携して対応しています。	かかりつけ医については本人や家族の希望する医療機関となっている。皮膚科や眼科への受診は原則として家族にお願いしているが、家族の都合がつかない時には職員が付き添うこともある。訪問看護師が週1回来訪しており、医師と連携している。受診後は書面や電話で家族へ結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医と同じ病院の訪問看護ステーションと業務委託契約し、週1度定期的に訪問をして頂いています。体調不良等みられた場合は、24時間電話で対応して頂き、随時訪問や主治医への報告、相談をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状、入院は主治医の病院で、主治医、訪問看護師、病棟看護師、家族と随時連携をとっています。退院許可がおりた時は、家族と連携し速やかに対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応・終末期ケア対応指針」及び「終末期ケア(看取り)に関する同意書」を作成し、利用者、家族に説明し、同意を得ています。終末期のあり方、具体的なケアについては、個々に話し合い、検討をすすめています。	現在利用されている方全員に重度化や終末期に向けた方針を十分説明している。重度化しホームで支援を受けながら病院に移られなくなった利用者がある。ホームには看護師もあり、医師や訪問看護師との連携をとりながら終末期の支援ができるように体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生等の緊急時の対応についての研修を行っています。ヒヤリハット報告書の活用も行っていきます。救命講習も受講するように促しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民にも参加を呼びかけ、1階の小規模多機能居宅介護と合同で防災訓練を実施しています。研修も行い、適宜朝礼で確認するなどして、防災意識の向上を図っています。災害発生時に備え、非常用の水、米を用意しています。	年2回、消防署の指導の下、災害訓練が実施されている。避難時に車椅子が必要な利用者もいるが、職員の誘導を受けながら非常階段を使い訓練に参加している。通報連絡と消火の訓練も行われ、地域住民も参加している。利用者の居室と食堂には「避難経路図」が見やすい場所に貼られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には苗字にさんづけで呼んでいません。言葉かけも丁寧に失礼がないように行っています。	「基本的マナーのマニュアル」があり、運営会社の介護事業部としてのマナー研修が実施されている。職員は利用者一人ひとりを年長者として敬い、利用者の尊厳を守っている。居室入り口には個人情報等の関連から表札でなく個々の目印で区別できるようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や外出、普段の体操やレクでも、参加は促しますが、無理強いせず、ご自分で決めて頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアでみなさんと一緒におしゃべりや、体操・レクなどをして過ごされる方もあれば、大半を居室で過ごされる方もあり、それぞれの生活スタイルを尊重するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を整えることを促したり、ご自分で難しい方は介助しています。入浴後の着替えも自分で選んで頂くようにしています。訪問理容にきて頂いていますが、美容室と一緒に行くこともしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は、主に片付けを一緒に行って頂いています。行事食を作る時などは一緒にして頂いています。ホットプレートを使用して焼きそばをテーブルの上で作ることなどしています。	一部介助の方が若干名いるが、殆どの方は自立されている。また、利用者全員が常食で二つの大きなテーブルを囲み職員の見守りを受けながら楽しそうに昼食をとっていた。食後も職員が食器を洗い、利用者がテーブルの上で食器拭きを行っていた。誕生日にはケーキを作ったり本人の好きな料理をつくり、お茶や食事の時間にお祝いしている。代表者の所有する畑で野菜の収穫をしたり、代表者自ら蕎麦を打ち利用者や職員に振る舞うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本の献立は、栄養士が作っていますが、行事の時や食材の状況により、メニューをかえています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、行って頂いています。自分では難しい方は介助しています。起床時と食前はうがいを頂くよう声かけしています。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレもしくはポータブルトイレで排泄して頂くようにしています。おむつ類は極力使わないようにしています。入院中おむつだった方も、退院後にトイレ(ポータブル)での排泄に戻っています。	何らかの介助を必要とする方が三分の二ほどいるがオムツやリハビリパンツなど一人ひとりの状態に合わせ最適な方法をとっている。布パンツで自立されている方もいるが、トイレでの排泄を基本とし職員が誘導している。夜間ポータブルトイレを利用している方も若干名おり、安心のため昼間も居室にポータブルトイレを置く方もいる。後処理は職員が素早くしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前のお茶の時間に自家製ヨーグルトを提供しています。運動(体操)して頂く時間を少しでも作るようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホームで基本の入浴時間を決めています。が、外出がある時、体調をみながら変更して対応するようにしています。お湯は温泉水を入れていきます。冬至にはゆずも浮かべました。	運営会社でタンクローリーを所有しており、市内の温泉のスタンドで汲み上げ、ほのかに硫黄分の香りがする温泉水が使われている。週に2回以上入浴している。現在、職員二人で介助する利用者がいるが、併設の小規模多機能型事業所にはリフト浴が設置されているので更に重度化した場合にも対応ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	比較的早く休まれる方が多いですが、眠れない時は、フロアでテレビを見て頂いたり、お茶を飲んでお話をしたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員によって理解に差があります。個人ファイルの中に作用、副作用を書いた書類を挟んでいます。勉強会を開催したり、個々に確認を促す等すすめます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや茶碗拭きなどをして頂いています。今後、一人ひとりの楽しみごとの把握、実践をすすめます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒くなるまでは、週1、2回交代で買い物やドライブに出かけていました。暖かくなれば、行き先の希望を確認しながら再開していきます。	時季に合わせ、桜や水仙、菖蒲などの名所へお弁当を持参し出かけることがある。個別での外出として買い物や美容院に行くこともある。駐車場であゆを焼いたり、餅つき、どんど焼きなども行い、気分転換をしている。	行事外出だけでなく、体力維持も兼ね日ごろからホーム周辺を散歩するなど、気分転換の機会を更に増やしていただくことを期待したい。

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないですが、出かけてお買い物したり、訪問販売の乳製品を購入されたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの手紙や電話の取り次いでいます。希望があれば、電話もかけて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、鯉が泳ぐ水槽を置いたりしています。季節感を感じられるような飾り付けも行っています。	食堂兼リビングにはソファも置かれ、それを中心に居室が配置されている。オープンキッチンでカウンターから利用者に声をかけながら調理することもでき、利用者も気軽に食器拭きなどに関わっている。行事や外出時の写真、利用者の手芸作品なども壁面に飾られている。天窓から入る陽射しは柔らかく、エアコンで快適に過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をとって頂くテーブル以外に、ソファを配置し、自由に過ごして頂くようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ある程度自由に使っていただいています。カラーボックスを置いたり、写真を飾られています。	ホーム備え付けの洗面台、収納家具やベッドが置かれている。机や収納用のボックス、歩行器、ポータブルトイレなど、自宅からの持ち込みも見られた。職員手作りの誕生日カード、家族の写真が壁に飾られた居室、利用前から愛読している文芸雑誌・家庭雑誌などが机の上に置かれた居室もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように表示しています。それぞれのお部屋にも名前を掲示しています。		